

あ と が き

ニューヨークのテロから1年がすぎた。テロをきっかけに起きた世界の枠組みの大きな変化のひとつに、ロシアとアメリカの急接近がある。旧ソ連邦、中央アジアに、アメリカ軍が駐留するなど、いったい誰が予測しえたらう。しかしその背後には、シベリアやカスピ海の豊かな石油資源をアメリカに結びつけ、ロシア再生の切り札にしようという壮大な戦略があるのだという。そのアメリカがイランに向けて拳をあげるとき、中東の石油資源が無関係であるはずがない。時代の動きをしたたかに利用しつつ、エネルギーセキュリティは世界の枠組みをも塗りかえてゆく。かたや我が国では、グローバリズムのかけ声が大きくなるにつれ、エネルギーセキュリティ論がタブー視されているように思える。が、それでいいのだろうか。エネルギー確保のような、長期的かつ基本的な事柄が、そのときそのときの、時代の変化のうわつらだけに左右されてはならないと考える昨今である。

(吉田 正)

核データニュース編集委員会

中川 庸雄(委員長、原研)、井頭 政之(東工大)、岩本 修(原研)、喜多尾 憲助(データ工学)、長谷川 明(原研)、吉田 正(武蔵工大)